

脱炭素（温室効果ガス削減）への取組み ～家庭の取組み編～

○2030 年度までに家庭部門が目指す指標

町全体の脱炭素化に向けて、家庭部門が目指す指標を設定しました。

項 目	2030 年度の指標
自家消費型の太陽光発電の導入規模（件数）	19.5MW （約 3,900 棟）
ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）導入割合	100%
LED 導入割合	96%
電気自動車（EV）・プラグインハイブリッド車（PHV/PHEV）の導入割合	16%
クリーン電力（二酸化炭素を排出しない手法で発電された電力。太陽光発電・風水力発電・地熱発電など）の活用	積極的に利用
断熱改修の促進	積極的に検討
高効率機器の導入促進	積極的に検討

○家庭でできる脱炭素の取組み

家庭で実践できる省エネ・脱炭素化の具体的な取組みを検討しました。

これらの取組みは SDGs の目標達成とかがわりが深いため、関連する SDGs マークを掲載しています。

項 目	取組 優先度	内 容		
省エネルギー 行動の実践	高 ※コストがかからない、低減できる内容が多い	省エネに関するリーフレットなどを参考にした、省エネ行動の取組		
		スマートメーターなどエネルギー消費量の「見える化」を活用して、無駄なエネルギーを使わない		
		ウォームシェア、クールシェア、クールチョイス運動等への参加による省エネルギーの努力		
		自転車や公共交通の利用の努力		
		運転時はエコドライブを心掛ける		
		輸送距離の短い、近隣で採れた農産物、旬の食材を利用		

項 目	取組 優先度	内 容
ごみの減量	高 ※コストがかからない、低減できる内容が多い	マイバッグやマイボトル、過剰包装を断る等、ごみを発生させない消費行動  12 つくる責任 つかう責任  13 気候変動に具体的な対策を
		食品ロスや生ごみの減量等、ごみの発生抑制  12 つくる責任 つかう責任  13 気候変動に具体的な対策を
		生ごみを出す際は水切りを行うことで、運搬や焼却に要するエネルギーを削減  12 つくる責任 つかう責任  13 気候変動に具体的な対策を
		資源とごみの分別  12 つくる責任 つかう責任  13 気候変動に具体的な対策を
環境に配慮した様々な活動への参加	中 ※日常的な活動ではない	環境問題に関心を持ち、環境情報を収集  4 質の高い教育をみんなに  13 気候変動に具体的な対策を
		環境学習や環境保全活動等への参加  4 質の高い教育をみんなに  13 気候変動に具体的な対策を
		環境に関わる地域活動に参加 (美化・緑化・リサイクル活動等)  4 質の高い教育をみんなに  13 気候変動に具体的な対策を
		地域の再生可能エネルギーを活用している小売電気事業者 ⁴⁾ から電力を購入  7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに  12 つくる責任 つかう責任  13 気候変動に具体的な対策を
		環境・社会・ガバナンスの要素を考慮する ESG 投資を踏まえた資産運用  4 質の高い教育をみんなに  13 気候変動に具体的な対策を
省エネルギー機器の利用や再生可能エネルギーの導入	低 ※効果は高いが、コストがかかるため、時期を見て実施	省エネ型の照明や家電、高効率給湯器への交換など、環境性能の高い機器等の導入  12 つくる責任 つかう責任  13 気候変動に具体的な対策を
		エコカー（ハイブリッド自動車、電気自動車、燃料電池自動車（FCV）等）の選択  7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに  12 つくる責任 つかう責任  13 気候変動に具体的な対策を
		家電製品の買い替え時には省エネルギーラベルを確認し、地球温暖化への影響が少ない製品を選択  12 つくる責任 つかう責任  13 気候変動に具体的な対策を
		太陽光発電、太陽熱利用設備や蓄電機器、薪ストーブ等を自宅に設置し、再生可能エネルギーを生活に取り入れる  7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに  12 つくる責任 つかう責任  13 気候変動に具体的な対策を
		家庭用燃料電池の導入  7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに  12 つくる責任 つかう責任  13 気候変動に具体的な対策を
		うちエコ診断の実施  12 つくる責任 つかう責任  13 気候変動に具体的な対策を

項 目	取組 優先度	内 容
住宅の 省エネルギー 化	低 ※効果は高い が、コストが かかるため、 時期を見て実 施	新築時・改築時には、省エネルギー住宅、環境配慮型住宅、ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）など、省エネルギー性能の高い住宅になるように努める 7 建築物・ものづくりに もってグリーン化 11 住み続けられる まちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に 具体的な対策を
		窓の改修・遮熱化、壁面などの断熱化等、建物の断熱化の実施 11 住み続けられる まちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に 具体的な対策を
		自然の風や光を活かした通風・採光の確保等により、住宅の省エネルギー性能を高める 11 住み続けられる まちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に 具体的な対策を
		賃貸住宅を選ぶ際は、複層ガラス窓など断熱性に優れた住宅を選択 11 住み続けられる まちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に 具体的な対策を
		HEMS（住宅エネルギー管理システム）を導入して、エネルギーの「見える化」を利用し、住宅でのエネルギー管理を実践 11 住み続けられる まちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に 具体的な対策を
緑豊かな 住まいづくり	低 ※効果は高い が、コストが かかるため、 時期を見て実 施	敷地内や建物の屋上、壁面の緑化、生垣をつくるなど、住宅の緑化の実施 11 住み続けられる まちづくりを 13 気候変動に 具体的な対策を 15 陸の豊かさも 守ろう
		アサガオ、ヘチマ、ゴーヤ等を育てて、夏の省エネルギーに効果がある緑のカーテンを作る 11 住み続けられる まちづくりを 13 気候変動に 具体的な対策を 15 陸の豊かさも 守ろう
		新築時・改築時には、敷地内の緑の保全・創出に努める 11 住み続けられる まちづくりを 13 気候変動に 具体的な対策を 15 陸の豊かさも 守ろう
		雨水貯留施設・雨水タンクを利用した打ち水・散水を実施 6 安全な水とトイレ を世界中に 11 住み続けられる まちづくりを 13 気候変動に 具体的な対策を 15 陸の豊かさも 守ろう

○家庭の省エネ取組みの効果（温室効果ガス削減効果、光熱費等の節約効果）

家庭での省エネルギー行動や機器の更新による具体的な温室効果ガスの削減量を試算し、次の表にまとめました。

各家庭において省エネルギー行動や機器の更新の取組基準の参考になるような情報を提供するため、それぞれの節約金額も試算しています。

分 類	取組の内容	CO ₂ 削減量 kg-CO ₂ /年	節約金額 の目安/年
空調等  	冷房（エアコン）は必要な時だけ（使用を1日1時間短縮する）	8.5	¥510
	冷房（エアコン）の温度設定は室温 28℃を目安にする	13.7	¥820
	エアコンのフィルターを月2回程度掃除する	14.5	¥860
	暖房（エアコン）は必要な時だけ（使用を1日1時間短縮する）	18.5	¥1,100
	暖房（エアコン）の温度設定は室温 20℃を目安にする（外気温 6℃の時、21℃から 20℃にした場合・9 時間/日）	24.1	¥1,430
照明  	白熱電球から LED ランプに取り替える	40.8	¥2,430
	白熱電球を1日1時間短く使用する	8.9	¥530
	蛍光灯を1日1時間短く使用する	2.0	¥120
	LED ランプを1日1時間短く使用する	1.5	¥90
テレビ  	画面を明るくしすぎない （液晶 32 型の画面輝度を「最大」から「中間」にした場合）	12.3	¥730
冷蔵庫  	設定温度を適切に設定する（「強」から「中」に変更）	28.0	¥1,670
	物を詰め込みすぎない	19.9	¥1,180
	無駄な開閉はしない	4.7	¥280
	開けている時間を短く	2.8	¥160
	壁から適切な間隔で設置	20.4	¥1,220
炊飯器  	電気炊飯器で長時間の保温をしない （1日7時間保温した場合と、保温しなかった場合の比較）	20.7	¥1,240
電子レンジ  	ガスコンロから電子レンジの利用に変更する	12.6	¥990
ガスコンロ  	炎が鍋底からはみ出さないように調節する	5.3	¥390

分 類	取組の内容	CO ₂ 削減量 kg-CO ₂ /年	節約金額 の目安/年
ガス給湯器 	入浴は間隔をあけずに入る (2 時間放置で 4.5℃ 低下した湯 200ℓ を追い炊き：1 回/日)	85.2	¥4,590※ ¹
	シャワーはこまめに止める (45℃のお湯を流す時間を 1 分短縮した場合)	28.4	¥1,530※ ¹
	食器を洗うときは低温に設定する	19.5	¥1,050※ ¹
トイレ 	トイレ(温水洗浄便座)を使わないときはふたを閉める	15.8	¥940
	便座暖房の温度を低めに設定する (設定温度を一段階下げた場合・夏は暖房を切る)	12.0	¥710
	洗浄水の温度を低めに設定する	6.3	¥370
自動車※ ² 	ふんわりアクセルを実施する (発進時は最初の 5 秒で時速 20km 程度の加速を目安にする)	10%減	—
	加減速の少ない運転を心掛ける	2～6%減	—
	タイヤの空気圧の点検・整備	4%減	—
再エネ導入 	太陽光発電を設置する※ ³	842.1	¥88,000
	太陽光発電(蓄電池あり)を設置する※ ⁴	1926.4	¥131,000
	太陽熱給湯器を利用する※ ⁵	550.0	¥70,000～ 120,000
その他 	ZEH 住宅を導入する(対 一般住宅)※ ⁶	20%以上減	—
	EV を導入する(対 ガソリン車)※ ⁷	32%減	—

※¹ ガスの価格の約 120 円/m³を参考に計算しています。

※² 環境省の「エコドライブ 10 のすすめ」を参考にしています。

※³ 環境省「令和元年度再生可能エネルギーに関するゾーニング基礎情報等の整備・公開等に関する委託業務報告書」と経済産業省「第 7 3 回 調達価格等算定委員会配付資料「太陽光発電について」」を参照に下記の計算式で算定しています。

CO₂ 削減効量 [842.1kg-CO₂/年] =

太陽光発電の規模 [5kW] × 1kW 当たりの年間発電量 [1215kWh/kW・年]

× 自家消費率 [30.6%] × 電気の CO₂ 排出係数 [0.453kg-CO₂/kWh]

節約金額 [円/年] =

自家消費量 [1858kWh/年] × 単価 [27 円/kWh] + 余剰電力量 [4,216kWh/年]
× 売電単価 [9 円/kWh]

※4 自家消費率が 70%に仮定して計算しています。

※5 株式会社サンジュニアのホームページより抜粋

※6 経済産業省の定義より、最低ランクの省エネを採用

※7 日産自動車のホームページより、使用以外にも、製造に必要な原料採掘の段階から、製造、輸送、廃棄に至るすべての段階(ライフサイクル)において環境負荷を定量的に把握して評価したリーフの結果を採用